

広報

のあさひ

No.370

'87

9/15



手作りの岡楽ちようちんで風神様の道案内

(8/31 大谷の^{かどまつり}風神祭)



「三世代でんじゃ」の運転手は元気なおじいちゃん。福祉村へ出発！

長寿社会を生き生きと

心豊かなシルバーランドを築こう

人生八十年時代を迎えて、いよいよ高齢者の役割が高まっています。一・八・三割と県一の高齢化率となつていくわが町。これまで経験したことのない急速なスピードで進む高齢化社会の中で、いきがいのある心豊かな長寿の里を築くためにはどんなことが大切なのでしょう。

三世代同居率がトップ

まずはじめに、県内トップの地位にあるわが町の高齢化の状況から見てみたいと思います。

男七五・二三才、女八〇・

九三才と平均寿命が世界一に伸びているわが国にとって、高齢化は全国的な傾向ですが、その中でも山形県は一・三・四割と全国第六位の地位にあります。この状況がこのまま推移すると、グラフのように昭和七十五年にはわが町は三〇割の地位にのることが予測され

(県推計)、三人に一人が高齢者といった状況が生まれることとなります。

表一は世帯の別計別構成を比較したのですが、これによると全国的に核家族

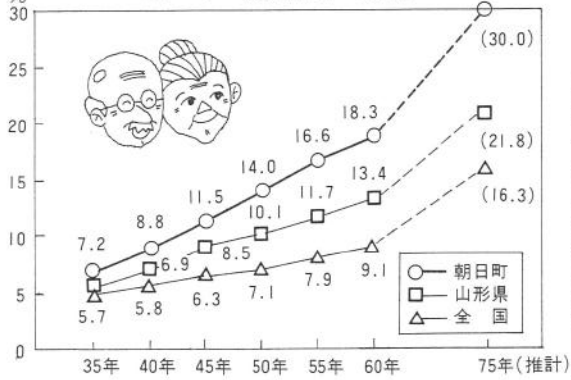
化の傾向が進んでいる中で山形県はその割合が低く最下位となっており、逆に三世代世帯は全国トップの地位にあります。さらにわが町の場合は、全世帯の約半分が三世代世帯で県内でもトップクラスにあり、核家族、単独世帯の割合も県よ

り大幅に下回っていることがわかります。

これは、長寿社会にとつては望ましい姿であり、「家族」の中に本来備わっている扶養、介護機能が保たれている現れとして注目されています。

また現在までの一人ぐらしやねたきり、痴呆などの要介護老人の状況は表二のとおりですが、長寿社会が進むにつれてこの出現率が高くなる傾向にあります。このような助けを必要とする老人への福祉サービスの提供も大きな課題ですが、単に福祉や医療、年金など

図-1 高齢化率の推移



＊デイサービス／老人の保育所型サービス施設
＊ショートステイ／短期間に限って老人を預る施設

①福祉ネットワークの確立
本年三月に県に提出された社会福祉審議会の答申によると、当面の対応として

の分野にとどまらず、雇用や教育、生きがいなど広範な分野に対応を迫るものといえます。ひいては、家庭や地域そして町づくりの将来にとって、大きな影響を及ぼすものであることはいうまでもありません。

福祉と医療の一体化を

による地域福祉の推進
②＊デイサービス・＊ショートステイなど在宅福祉の充実を上げており、とくに公私の役割分担を打ち出しています。
さらにこうした地域の福祉活動を活発にするため、その中心的な活動母体である社会福祉協議会の機能強化を進め、ボランティアの

つぎに、現在行われている町の老人福祉の内容を紹介しながら、今後の課題についてふれてみたいと思います。
私たちにとって、いつまでも健康で長生きできることは望ましいことですが、年齢と共にさまざまな病気や痴呆などの症状が出てきます。これに対して医療や福祉制度の充実も大分はかかれてきていますが、在宅福祉サービスとして次のような事業が行われています。
＊家庭奉仕員の派遣
三名の奉仕員が各家庭を

育成、地域の福祉力の強化などが不可欠であると期待しています。
増大する福祉ニーズ（要求）に対応していくためには、行政はもち論のこと、社協や民間の福祉団体とともに連携しあつて、より充実した長寿社会になるよう総合的な高齢化対策を進める必要があるといえます。
巡回。ねたきりやひとりぐらし老人の食事や身の回りの世話、話相手などのサービスを提供。
＊ねたきり老人短期保護（＊ショートステイ）事業
ねたきり老人のいる世帯で一時的に介護できなくなった世帯に対し、大寿荘などへ短期間入所できるシステム。
＊巡回入浴車の派遣
ねたきりなどで入浴できない家庭を巡回し、月一回入浴サービスを実施。
＊紙おむつの支給
常時失禁の状態にあるね

たきり老人のいる低所得世帯に月二百枚まで。所得税課税又は入院等の世帯に月百枚まで支給。
＊ベッドなどの貸与
ねたきり老人のいる低所得世帯に特殊寝台の貸与とマットレスを給付。
＊除雪費の一部支給
一人ぐらしなどで身よりのない老人世帯で、自力で除雪できない低所得世帯に除雪費の一部を支給。
＊老人福祉相談員の派遣
一人ぐらしなどの老人世帯を訪問、日常生活上の相談や健康管理、話相手など二名の相談員が巡回。
＊介護者激励会の開催
毎日介護にあたっている介護者を励ますとともに介護の仕方などについて講習。
こうした福祉サービスの充実をさらににはかつていくことは当然必要ですが、新たな対応も迫られています。その一つは、在宅のねたきり老人をかかえて介護者の負担も大きくなっており、

表-2 在宅要援護老人の推移

区分	年	54	56	58	60	62
ねたきり		68	49	44	25	27
痴呆		—	—	21	19	10
ひとりぐらし		27	35	30	37	47
夫婦のみ		50	51	66	78	86

(福祉資料より)

表-1 一般世帯の世帯類型別構成 (60年国調)

区 分	核家族 世 帯	三世帯 世 帯	単 独 世 帯	その他 世 帯	一世帯当 り 人 員
朝日町	37.4%	47.7%	4.8%	10.1%	4.23人
山形県	45.7	33.3	12.7	8.3	3.77
全 国	60.0	13.9	20.8	5.3	3.14

介護者自身の健康問題や外出できないなどの悩みが増えていること。派遣介護人の制度やディサービス、医療と福祉の両面の機能を備えた中間施設などの整備が望まれています。

さらに、現在も隣組を中

人材バンクで能力の活用を

健康で動けるうちは働きたい——高齢者の大半はこう願っています。何らかの形で家庭や地域社会の役に立つこと、これは大きな生きがいでもあります。

とくに高齢者のもつ豊かな人生経験と、長年培った技能や知識は町づくりの上でも欠くことのできないものです。

町と社会福祉協議会ではいま高齢者の人材バンクづくりを進めています。こうした高齢者のもつ豊かな能力を地域づくりに生かしてもらおうというものです。具体的な内容は現在検討している段階ですが、まず木工やつる細工、陶芸、機

心とした温もりのある地域づくりがすすめられています。ねたきりやひとりぐらし老人世帯への訪問や話相手、雪ふみなどのちょっとした心配りで、あたたかい地域福祉の輪を広げていくことも望まれています。

織りなどの工芸部門や郷土

芸能、民話、おはやし、文化財などの郷土に関する部門、民謡、尺八といった音楽部門、和洋裁、郷土料理、菓子づくりなどの家事、絵画、書道、短歌などの美術、文芸部門、菊づくり、囲碁、将棋、つりといった娯楽部門、薬草、育林、農業技術などの自然といったあらゆる分野で、幅の広い人材を登録してもらおう予定です。

そして当面の町づくりの上でも大きな課題となっている、家族旅行村開設に伴う特産品や土産品の開発などでは、工芸、菓子づくり、養魚、農業技術といった部門の特技の持ち主に活躍し

ふ・れ・あ・い・イ・ン・タ・ビ・ユ・ー

——婦人若妻会が積極的に高齢化問題にとりくまれたきっかけは、どういうことでしょうか。

***登坂** 活動の目標としてボランティアと自己学習の二つを掲げてとりくんでいるわけですが、高齢化社会を迎えて私たち婦人の役割が一そう大きくなっている、今こそこの問題に正面からとりくもうということに

高齢化社会は私達婦人の時代——と、いま町の婦人若妻会がぬくもりのある地域づくりめざして活動にとりくんでいます。

さる七月に行われた西村山婦人大会でのレポートを中心に、西部地区婦人会長の登坂富さんに伺いました。



「心が大切」と語る登坂さん

婦人の役割が増す長寿時代

婦人・若妻会の活動より

"ふれあい"の輪さらに大きく

なったわけですね。

——六月に「高齢者対策アンケート調査」を独自に実施されたそうですが、内容についてお話し下さい。

***登坂** まず町のおとしよりの実態がどうなっているか、とくにねたきりやひとりぐらしなどの助けを必要とする方々の姿が、今回の調査でよくわかりました。

回収率八〇割で、ねたき

り二十九人、ひとりぐらし男二十九人、女三十三人、夫婦世帯四十九世帯から回答してもらいました。

——とくに目立った点はどのようなことでしたか？

***登坂** ねたきりの方では介護者の七二割が婦人で、うち嫁さんが四一割と国の平均より高くなっていること。介護者の悩みとして、外出できない、代わってくれる人がいないといったことが寄せられました。

ただ特別養護老人ホームには入れたくないという人が六五割と高く、大半が自分の手で扱いたいという温かいデータが出ており感心しました。隣近所も陰口などがなく気にならないと答えた人が七割もあり、地域でも温かい目で見守っている様子が伺えますね。

ひとりぐらしや夫婦のみの世帯も年々多くなっているんですが、意識面で特徴的なことは？

***登坂** 両方に共通している点は健康についての不安が一番。生活の中で困って



「わが子を育てるように」と、手入れに余念のない斉藤さん

でもらう。山村留学や都市との交流、生涯教育などをすすめるために、郷土史や文化財、つり、きのこ、山菜、育林、といった分野の人材に活躍してもらおうという計画です。

こういったさまざまな分野で豊かな能力を生かしてもらおうとともに、若い後継者や子どもへの伝承指導も大切な役割があります。

家庭や地域で、高齢者の

もつ経験や知識を大いに認めあうとともに、高齢者自身も家に閉じこもることなく、大きな包容力で明るい地域づくりに貢献してもらいうことも大切でしょう。

健康で、高齢者のパワーがあふれる長寿のまち、こころ豊かな生きがいのある「シルバーランド」朝日町を、ぜひみんなで築いていきたいものです。

アケビ栽培に生きがい燃やす

大滝 斉藤孝太郎さん（76歳）

アケビの栽培研究にとりくんで三十六年。昨春秋、斉藤さんの長年の栽培技術をもとにした「手引書」が発刊され好評を博している。置賜農高、貝和武夫氏著の『アケビ——どこでもできる人工栽培』がそれ。中には斉藤さんの珠玉の研究成果がびっしり。

「親父が山から採ってきた植えたのが四本。たった十坪から始めたのがきつ

いることは、働きたいが雇用者がいないことや歩道の雪かきが大変、後継ぎがいなくて困るといったことがありました。

——今後婦人会としてどのようなとりくみをしていく考えでしょうか。

＊登板 先の婦人若妻リーダー研修会でも活発な意見が出されたんですが、寿学級で若妻会が手づくりの弁当や料理を出したり、西部で食改とタイアップして月

二、三回ひとりぐらしの世帯に食事を届けたりといった活動をやっているんです。常磐地区でも三世代交流のついでで、ちゅうなごやたこづくりを孫たちとやって喜ばれています。こうした活動を今後もぜひ続けたい。

またお茶のみや声がけ運動なども気軽にできますので、隣近所のつきあいを大切にしながら、温かい地域づくりをすすめていきたいですね。

さらに、平均寿命では女性に六年も長生きするわけですし、家庭や地域でも婦人の役割は増えています。長寿社会は私たちの問題であることを認識しあって若いうちから趣味や教養を身につけて自己を高めることを心がける、子や孫たちに身をもって高齢者を敬う心をうえつけないといったことが大切ではないでしょうか。

——どうもありがとうございます。

け」と笑う。いろいろ試行錯誤をくり返し、今では約三アールの棚に数えきれない程の品種が並ぶ。

「自分がやっているのは金もうけよりも、アケビのような野生の植物でも栽培できることや、無限にある品種を発掘して後世に残すため。零細農家や高齢者でも十分やれることを実証していきたい」と語る。

四年前に生産組合を結成

指導にあたりながら組合長としても活躍している。現在、早生では「紫峰」「初ひめ」、中生では「秋月」「早乙女」「葵」「晩秋」などを奨励品種として指定。約三十名の農家が栽培にとりくんでいる。

「アケビはおもしろいもので、同じ品種でも気候や風土で全く違ったものがで

きる。全国で山形が一番の適地。それだけに主産地でもあります。四国や北海道からも視察にやってきますよ」中には毎年足を運ぶ人もいるとか。アケビを語る

と次々に話がはずみ、目の輝きも一段と。

いまアイコやウドの出荷もやっており、シドケ、シオデ、アマドコロ（ナルコユリ）など、新たな山菜の栽培にもとりくんでいる。

「いやあ、なかなかむづかしくて。死ぬまで勉強だな」とますます意欲をもちます。斎藤さん方の裏手には紫色の見事なアケビがざらり。樹齢百年以上もたっているという、先代が残したアケビづる。まだまだ現役で今年も鈴なりの実をつけ秋の香りを漂わせている。

長寿番付表

(62.9.1現在)

東										西									
横網斎藤	大関安藤	張大関藤	関脇白田	小結柴田	〃	〃	〃	〃	〃	横網村山	張大関今野	関脇芦野	小結鈴木	小阿部	〃	〃	〃	〃	〃
金治郎(大滝)	新五郎(松原)	志う(栗木沢)	忠太郎(大暮山)	きち(栄町)	とみゑ(大町)	ゆり(太郎二)	くま(栗木沢)	93	93	はつる(宇津野)	もと(本町)	ミサ(明鏡荘)	いづつ(助ノ巻)	キク(大町)	はつる(宇津野)	やす(明鏡荘)	93	93	93
前頭結柴田	小結鈴木	鈴木木喜一郎(西町)	阿部忠太郎(明鏡荘)	増五郎(中沢)	角治(栗木沢)	みよの(大谷五)	きく(川通)	92	92	前頭結大滝	阿部蔵(西原)	登坂高顯(八ッ沼)	遠藤たつよ(栗木沢)	白田まん(大谷六)	阿部三郎(立木沼)	小林安雄(大沼)	92	92	92
前頭菅井エキ(沼向)	長岡みよ(松原)	佐竹峰松(夏草)	清野きく(古横)	長岡ますえ(太郎二)	阿部モトエ(大暮山)	柴田なをの(太郎二)	90	90	前頭安藤	長岡なちゑ(松原)	鈴木はつよ(前田沢)	佐藤きく(平)	菅井ふち(大隅)	清野わ(送橋)	阿部正巳(松程)	鈴木(松程)	90	90	90
前頭鈴木	川村三太郎(大谷六)	木内しげ(明鏡荘)	清野きく(四ノ沢)	佐竹武一郎(八ッ沼)	鈴木吉蔵(西船渡)	柴田ムツ(大町)	90	90	前頭若月	桑原とくゑ(栗木沢)	小林つるゑ(大沼)	岡崎文吉(下芦沢)	柴田香(大町)	布施カヨ(松程)	90	90	90	90	90

祝 長 寿

勳進元 朝日町



9月10日、白寿のお二人へ敬老慰問、県と町からお祝品が届けられた

90歳以上が60名

9月15日は敬老の日。この日を記念して毎年、長寿の方々に寿賀祝品が贈られています。ことしも9月10日と14日の両日、敬老慰問が行われました。

ことし喜寿を迎えられた方(明治44年生)は105名。米寿(明治33年生)が20名、そして数え年90才以上の長寿組は60名と、年々元気なおとしよりが多くなっています。

町の最高齢は、めでたく白寿を迎えられたお二人。東の横網が大滝の齊藤金治郎さん、西の横網は宇津野の村山はつゑさんで、ここ4年間連続して横網の座を守っています。

さる9月10日には、県知事代理の大串西村山福祉事務所副所長、熊坂助役が訪問、お祝いの賀詞と記念品を伝達しお二人を励ましました。お二人とも床に伏ってはいるものの顔色もよく、食事も普通食を通してはいるとか。もうすぐ百歳、益々の長寿を祈りたいものです。

もうすぐ百歳、まだまだ元気です／白寿と米寿に敬老慰問

りんごの里へようこそ

●全国生産者研究大会で “朝日りんご”を現地視察●

全国の生産量が百万トンといわれるりんご。農産物の貿易自由化や国の農業水田確立対策による果樹への転作などの影響で、消費量や価格の伸び悩みが心配され、量的にもやや過剰気味。そんな中、消費者ニーズにあった品質の向上と販路の拡大をめざそうと、全国りんご生産者研究大会が九月二日と三日の両日、山形県を会場に開かれました。大会には青森をはじめ各産地からおおよそ千百人が参加。日程初日の二日は、主会

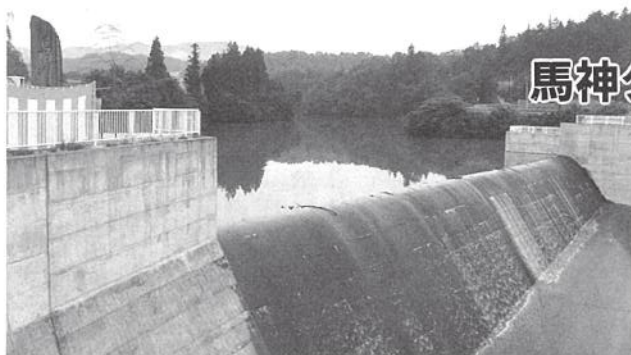


ミニ花笠をつけた参加者らに、お茶のサービス

場となった天童市民会館で主産地の現状報告や研究討議などが行われ、大会二日目は、県内の主要産地四か所のりんご園の現地視察。県内では三位の九千五百トンの生産量を誇る朝日町にも、県外からの参加者約八百人がバス十数台を連ね来町。和合の果樹流通センター前に降り立った参加者は、りんご農家や農協職員らの案内で、菅井久さんと鈴木勝昭さん経営の近くのりんご園を二回に分け視察。「朝日りんご」の目玉である無袋ふじの実も大きくなりはじめ、傾斜地ながらもわい化栽培や管理がいきとどいた園地を感じしながら見て回った参加者らは、農協りんご組合婦人部らのリンゴジュースとお茶の接待にひと息いれ、それぞれのお国言葉で産地間の情報の交換風景が見られました。

馬神ダムの整備工事が完成

●大谷盆地のかんがい38年 さらに農業用水を安定確保●



完成した馬神ダム堤体。写真左上が記念碑

県営の馬神ため池（馬神ダム）整備事業がこのほど完了し、九月三日現地で竣工祝賀式典が開催されました。

馬神ため池は、昭和十三年から十年以上の歳月をかけて、最上川の支流、大谷川をせきとめ造成されたもの。ここ近年老朽化がひどく、堤体からの漏水や余水吐の断面不足などで増水期には危険な状態となっていたものです。

昭和五十三年に、地元土地改良区の願いがようやく実現して、県営事業として全面改修工事に着手。十年間の工期で、

一・二八・五の堤体工をはじめ、一・一五・一八の余水吐工、一・三八・九の土砂吐隧道工、取水施設などの整備が行われたものです。

総工費は五億九千二百九十一万一千円。このうちの三億四千五百四万円が国庫補助、一億八千八百五

十八万円が県補助で、全体の九割が国庫の補助となっています。この工事によって、大谷地区一帯の一・二九畝の農地が潤うことになり、受益戸数は三・一四戸にのぼっています。

この日は、まず馬神ダム湖畔に建てられた記念碑の除幕式が行われ、神事のあと大谷土地改良区の長岡勇次郎理事長、大滝浩司西村山地方事務所長、小林町長らの手で、板垣県知事書の「竣工記念碑」と刻まれた御影石の記念碑を除幕。そのあと、北部体育館で工事関係者、地元受益農家の方々が出席しての祝賀式典が行われました。

なおこの日は同時に、六十一年度から二か年継続事業で行われた、大谷地区の土地改良事業（受益戸数四六戸、面積九・五畝、総工費八千二百一十一万四千円）とウグイス沢新農構改善事業（受益戸数一七戸、面積四・一畝、総工費三千六百四十八万三千円）の竣工祝賀会も合わせて行われました。



講演会風景

稲の刈り入れを前に 「コメ」をテーマに講演会

町地域開発研究会が開く

三十一年ぶりの生産者米

価の引き下げで、揺れ動く農政の中「夢じゃない世界一のコメづくり」と題した講演会が九月八日、町地域開発研究会（阿部宗一郎会長）の主催により、中央公民館で開かれました。

秋の採り入れを前に、仕事を終えた農家のかたなど約八十人が出席。「印旛沼土地開発」の農業実践家で、千葉県白井町農協長を務める兼坂祐講師の話に、熱心に耳を傾けていました。

*講演の主な内容

経営の規模拡大と技術革新による国際水準への接近努力こそ、農家の最大課題。

▼農業の「経営」上、生産原価の把握とその引き下げが生産利益に大きくはねかえることを十分認識し、低コスト、良質、多収生産を徹底してめざすべき。

▼土地改良などにあたっては、その農地にどういう経営を行うのか、確かなプランを描いた中で進めることが大切。さらに排水を十分

考え、田畑の輪換可能な農地づくりが必要。

▼世界各国の農業を見ると歴史的にも工業の発達で農機具などの改善を促し、農業の発展に深く拘わることや世界一の先進工業国。今後三十年後には飛躍的に農業が発達すると思われる。

▼今、日本の農業は大改革の前後を迎えている。やがて肥料もヘリコプターで散布。夕方、コンピュータ付きトラクターに指示を与えると、翌朝には五ヘクタールがひとりでに耕し終えていた、ということも間近で、コンピュータ付き無人トラクターを、世界で最初に運転するのは日本人。

▼農業技術は世界の最高水準。世界で一番おいしい果物を作る店は日本の八百屋さん。鶏に多量の卵を産ませられるのも世界で一番。原価意識に目覚め、適当な規模に世界で一番いい機械を使えるとしたら、日本の農業が世界一になるのは当然のこと、夢ではない。

八月二十二日、念願の「朝日町訪問」が実現となった。

ふるさと交流の糸口に——との事務所の呼びかけで、朝日町の十名の若者に、私の住む千代田区の「神田明神祭」に参加していただいたのが四年前。「御神興をかつぎ、裸でぶつかり合ったあの時の交流が忘れられない」と言う当時の地元関係者の声が高まり、それなら逆に千代田区の人

には、ふるさと朝日町の雄大な自然の中での交流を、と考え「区民キャンプは、ぜひ朝日町へ」と、主催する区のレクリエーション協会に推薦する機会を得た。

五月に現地の下見を行い、町の方々のご協力とアドバイスを、八月実施を決定。鳥原山・小朝日登山、いも煮会とワインパーティーなど

など、盛りだくさんのプログラムが出来上がった。区のお知らせで参加を呼びかけたところ、予想以上の人気で、三日間で定員の百

名となり、締め切り。

当日、高齢者センターでは、まだ暗闇の早朝にもかかわらず助役さんをはじめ町の皆さんの温かいお出迎え。続いて地元山岳会員の道案内に、ただただ感激、八十七歳のおじいさんは、皆さんに助けられながらの鳥原山制覇であったが、思いもよらぬ「最高齢朝日登山認定証」と日本一の前

ふるさとは素晴らしい！

東京連絡事務所だより43

喜び。参加者全員にも記念のバッジをいただき、またまた感激！さらに、豪華なバーベキュー、冷たくておいしい朝日町ワインに「ふるさとの味」いも煮会と、皆様のお心づかいに感激の二日間でした。帰りの車中では、「おいしかったね」「朝日町、大好き！」「新しいふるさとができた！」（参加者の約半数は東京生まれ）「絶対にまた来る！」などと、なごり惜しさがしきり。雄大な自然の素晴らしさ、温かいふれあいなど、ふるさとを

10月1日



就業構造基本調査にご協力ください

10月1日現在で、就業構造基本調査が実施されます。この調査は、全国37万世帯を対象に、地域別の就業・不就業の実態など基本的な就業構造を明らかにして、雇用対策など各種行政施策の基礎資料を得ることを目的に行われます。

今回の調査は、前回調査から5年目にあたり、この間に就業・不就業の構造は相当変化しており、また雇用をめぐる環境が極めて厳しい時期に実施されますので、各方面から調査の結果が期待されています。

朝日町の調査対象地区は次のとおりで、そのうち約100世帯の方々に、この調査へのご協力をお願いすることになっています。今月末に、国から委嘱された地元の調査員が、調査の依頼と調査票の配布にお伺いしますので、ご協力くださるようお願いいたします。

(所管/役場企画課)

【調査対象地区】

小原・下芦沢・常盤・太郎二・立木(朝日鉱泉)
松程・大谷一・大谷六・大暮山 の九地区



隊員の労をねぎらった感謝の会

また九月二日、第六師団第二十普通科連隊長から小林町長へ、完成した整地の引渡式も行われ、今後、年内完成に向け本格的な整備工事が行われます。

六月十五日から、陸上自衛隊第六施設大隊(神町)の協力で行われていた、西五百川小学校グラウンド新設工事の整地造成作業が、八月三十一日完了。同日、

完成検査の後、町長はじめ学校関係者が出席して、作業を担当した朝日作業隊三十五名への感謝の会が中央公民館で開かれました。

席上、小林町長から阿部

作業隊長へ感謝状も贈

られ、暑い日差しの中

での、隊員らの作業の

労をねぎらいました。

また九月二日、第六

師団第二十普通科連隊

長から小林町長へ、完

成した整地の引渡式も

行われ、今後、年内完

成に向け本格的な整備

工事が行われます。

「これまで農業に打ち込んでこれたのも、仲間のささえがあったから」と語るのは、松程の布施栄五郎さん四十二歳。九月四日、県庁で行なわれた山形県農業者実践成果発表会に寒河江地区の代表として出場。仲間



農業者実践発表会で

布施さん松程が県知事賞

と築いたりんごづくり」という実践活動の発表が認められ、優秀賞(県知事賞)を受賞しました。

布施さんかたでは四世代の八人家族で、現在、水稲八五aとりんご園一四五aの複合経営。農業高校を出て若き後継者となった布施さんは、安定した経営と技術の向上を図る上で、農業

に生きる青年仲間の組織化を訴え、昭和四十年に十三人の仲間とともに4日クラブ「進栄会」を結成。学習活動や篤農家の経営視察などを通して、それまで長くやっていた養蚕の将来に不安を感じ、仲間との経営研究をもとにりんご栽培に切り替え、経営改善を図ってきたものです。

まるごとバスに詰め込んで無事「帰京」。
この二日間を振り返りますと、ますます家族旅行村の開村が待ち遠しいかぎりです。地方にふるさとを持たない都会っ子を、一人でも多く「朝日町との出会い」

にお手伝いできたなら、今後ともふるさとのPRに努力を重ねていきたい。そして朝日町が「千代田区のふるさと」となる日も、もう夢でなく着実に一歩近づいたと感じた。

(副所長 池田政季)

西小グラウンドの整地完了

朝日作業隊 自衛隊へ感謝

自衛隊

大会の成功を祝って
組頭の握手

走って笑って輪になって つるま地域は明日の未来



このパワーが地域をつくる(綱引き)



はなやかなチアガール



オシリがぬけない!
(障害物)



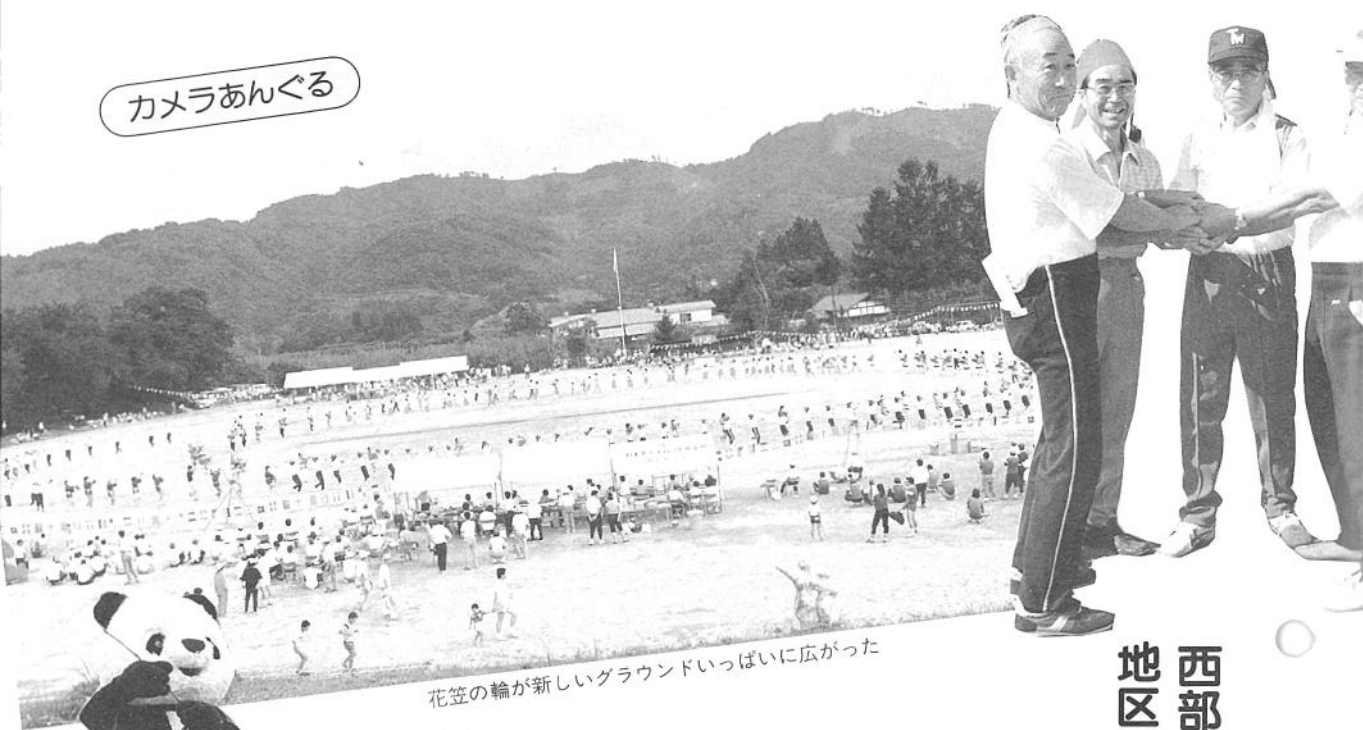
身に付ける順序もいろいろ
(消防支度リレー)



(右)支度

うまいぞ
(タイヤまわし)

カメラあぐる



花笠の輪が新しいグラウンドいっぱい広がった

西部公園グラウンドの竣工を記念して 地区民総出のレク大会を開催 8月23日

十六の区から成り、全戸数は現在七三九戸で、三〇六一人の人口を有する西部地区。その地域開発の拠点、住民のよりどころとなる西部公園が年々整備され、健康増進センターの建設につづいて、この春、待望の総合グラウンドが完成！
八月二十三日の日曜日、そのこけら落としも兼ねた地区民総出のレクリエーション大会が、秋空のもと、盛大に開かれました。

同大会は、全区を赤、白、青、緑のそれぞれの組に分けて、団体対抗戦で行なわれたもの。ユニークさと真剣さを取り混ぜた二十八種の競技に、老若男女の汗と笑いと声援が広い会場に飛び交い、大会最後は参加者の心が一つになり、花笠の大きな輪がグラウンドいっぱい広がりました。



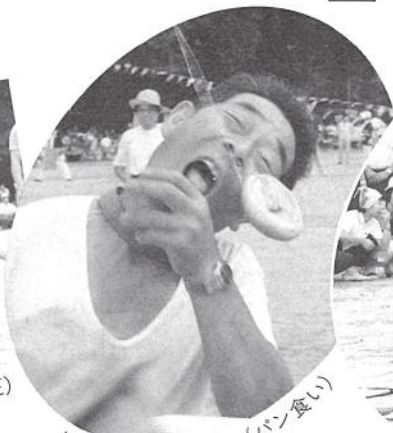
パンダくんも応援にかけつけてくれました



とくいとするとところ(三輪車のり)



母のオシリは強し(ケツ庄)



がんばるおとうさん(パン食い)



自衛隊員も参加



鮎釣りを通して教育を考える

いそがず、たゆまず、 「待つ」教育

鮎との出会い

私が小学校四年の頃です。父は鮎を釣り上げると「のぶひろ、釣っちゃがらいけすの缶を持って来い」と言い、私はすぐに缶を持って父の所へ走ります。缶を持って行くまで「逃げねどいいなあ」と思いながら。

釣った鮎をタモから、おとり入れ缶に入ると、父はにこっとしてひと安心したしぐさをします。私も「今のおっけんねがやあ」と言うと、父は「んだな、大分おっけくなつてだな」と言つて、また釣り始めます。

私は釣れるまで石に座って待つています。思うに、こんなことが父と子の心を結び付け、ひいては、よい家庭づくりの一つの要因になるのではないのでしょうか。

激流の鮎は元気

鮎の友釣りで最も大切なことに、三つあります。まず、おとりの鮎が元気であることです。もう一つは、よく川を見て鮎のいそうな場所を選ぶことです。そして三つ目は、鮎をあやつる技術です。

それでは、最初の元気なおとり鮎をつけるのはどう

夏になると釣り好きの父は、休日や早く帰宅した時には、決まって私を川へ誘つてくれたものでした。父と一緒に川へ鮎釣りに行けるというだけで、心はずみました。今思うと、父は私の手が借りたかたらしく、息子がいると何かと便利だったのでしょう。でも子どもの頃にかわした父との対話、鮎釣りを通して学んだ自然の中での魚たちの生態など、忘れられない思い出の中に、今、「父としての教育」をあらためて感じています。父から教わつた「鮎釣りを」通して、教育とは何かを考えてみたいと思います。

(教育広報委員 熊谷信弘)

とろ場にばかりいると、ものを創り出すエネルギーのある人間には育たないと思うのです。ですから、私は意識的にさまざまな経験を積み重ねることが、子供を立派に育てる大切な要因にな

して大切かと言えば、それは鮎がぐんぐん水中にもぐり、川の鮎と縄張り争いをさせるためです。元気のない今にも死にそうな鮎は、水面に浮き上がり縄張り争いの意欲すらなくなります。しかも元気な鮎は、少々無理をかけてもへばりません。それは激流で釣れた鮎だからです。とろ場(静かな所)で釣れた鮎や養殖ものの鮎は、激流に入れるとすぐへばつてしまいます。

このことから、子供たちにも激流に住む鮎と同じように、つらいことも常に体験させることが大切なのではないのでしょうか。いつも



▲親子のふれあいと健康づくりをねらいとした親子スポーツ教室も行われている (中央公民館)



◀ 8月20日、宮宿小学校PTA主催による
6年生親子登山が行われた(小朝日)

ると、鮎釣りを通して考え
ています。

よい石を選ぶ

鮎は、若い時にはざら瀬を好みます。とろ場ではもの足りず、激流の瀬では流される。そのために浅瀬のザラザラした瀬に多くいます。青年時代の鮎(七月頃から八月中旬頃)は盛んに激流を上り、その場に住みつきます。成熟期に入るとおなかに卵をかかえ、産卵の準備をするため、静かなとろ場を選びます。

しかし時には、八月始めにとろ場で釣れることもあり、鮎のいる場所を選ぶことは、とてもむずかしいのです。よく釣れる場所を選ぶには、それらの鮎の生態をよく知るとともに、水底の石がよい石であ

るか、そうでないかを見分けることです。そしてよい石とは、鮎の餌になるアカが石についているかどうかなのです。私は釣りをはじめて三十年余り、川の石を見ると、だいたい釣れそうな場所だと感じるようになります。

このように、石の見分けができるようになったのは、幼い頃、父の友人に釣りの名人がいたからです。その人は、一日に六〇匹も釣り上げるほどの名人でした。私はその人の鮎缶運びをしながら、石の見分け方を教えてもらいました。一日二百円ぐらいの駄賃をいただ

いて。よい石には必ず鮎が集まります。ほめてくれる親には子供が寄り添います。ですから私は、子供をほめることが最も大切だと思います。ほめ方が大きいければ大きいほど、両親との結びつきが強くなるのです。そして子供もまた、親からほめてもらおうと努力するものです。

時には、頭をなでながらほめてあげたり、話をきいてやり「すばらしかったね」とひとこと言ってやっただけでも子供はうれしいのです。ある時には、家族みんなでモチをついて祝ってあげることもよいでしょう。さらに奮発して、温泉旅行に連れて行ってあげるのもよいでしょう。とにかく、あなたはすばらしいことをしたのだ。だから家族みんなうれしのだ」とわかるようにしてあげることが大切なのではないでしょうか。

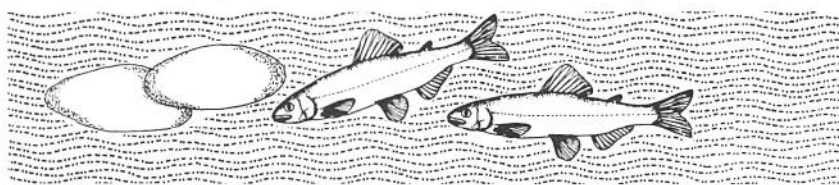
「待つ釣り」の心で

鮎釣りには大きく分けて二通りあります。一つは、おとり鮎を泳がせながら、鮎のいるところを探して歩き、釣る方法。これは案外確実な釣り方ですが、鮎を引きよせたり浮かしたりします。おとり鮎に負担がかかり早く弱ってしまいます。もう一つは、よい石を見つけて、鮎がその石に上ってくるのをじっと待

って釣るやり方、いわゆる「待つ釣り」と言いますが、おとり鮎の弱り方が少なくおすすめです。

親の教育にも二通りあると思います。一つは、子供の個性や能力も考えに入れて「教育の場」を与えてしまうことです。そろばん塾にはじまり、習字、英語、ピアノ塾、スイミングクラブなどなど、「塾通い」の多さにおどろくばかりです。これでは子供は消化しきれずに、早く「弱って」しまうのではないのでしょうか。はやく成長させたいと願うあまり、子供をだめにしてしまうと思うのです。

もう一つは、子供の熟する時期を待つことです。じいっと子供の成長を見守り、成長の度合を確めながら長い気持で育てていくことです。どちらにしても、その子の個性をみつげだすことが先決です。自分の子供を「少しずつ育てていく」という考えを、親として大事にしてほしいと思います。





夜空と湖面に映す ファンタジックな夏のフィナーレ

上郷ダム

3万5千人が 花火大会を楽しむ

花火は夏の風物詩

今年も夏の恒例行事、上郷ダムまつり花火大会が八月十四日、上郷ダム公園で開かれ、帰省客も含めた町内外からの、約三万五千人の見物客でにぎわいました。夜空に星が見え始めた午後七時、一万本の灯ろうが湖面を遊泳。ゆかた姿や家族づれの見物客が公園のさじき席をうめつくす中、ダムまつり実行委員長・小林町長の歓迎のあいさつに続いて、大小、色かたち様々な一千発の花火が夜空に咲き乱れました。

この花火大会の特徴は、なんと湖に映る花火も一緒に見れるという「二倍楽しむ方法」そのもの。そしてメインは、目前の水面で花開く豪快な水中花火と、長さ百五十メートルにおよぶ最上川の兩岸を結んだ「大ナイヤガラ滝」のしかけ花火。最後に二尺玉の大花火が満天をおおい、ついで、「ドーン」という大轟音とともに、夜空に短かった夏との別れを告げました。

花火大会と合わせ、ダムまつり協賛の釣り大会やふるさと特産即売会、チビッコカラオケ大会、ウナギとコイのつかみどり大会など多彩な日中の催しも行われ、ふるさと夏のまつりを楽しむ親子づれの姿が町内各所で見られました。



大町駐車場でチビッコ大会

9月9日

救急の日

用件は正しくあわてず 119番

一日救急隊長に多田 医師 会長

西村山管内の今年の救急出動件数は、「救急の日」の九月九日現在で八〇二件。うち朝日町での件数は九八件となっており、年々増加する傾向にあります。

九月九日を中心とした救急医療週間、救急医療体制の充実とその推進に理解と協力を求める記念行事が、町と広域消防朝日分署の主催で行われました。



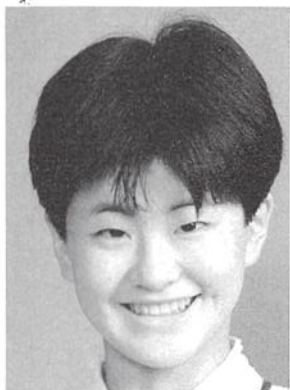
多田一日救急隊長の任務開始

役場前広場で、簡単な応急手当の街頭講習会が署員らの指導で行われました。朝日分署の前には、今年も署員らの自作によるPRのための人形が展示され、ケガをしたばうやを運ぶ「オバケのQちゃん」と人気者のパンダくんが、行き交う人に救急医療の大切さと呼びかけていました。

また十一日には、

今日の顔

中学女子剣道の「奥羽の覇者」
朝日中女子剣道部キャプテン



栗木沢 遠藤めぐみさん(15歳)

「練習はつらい時もあるけれど、『今日よりもあした』と自分に問いかけながらの、一日一日の練習の積み重ねが今回の結果につながったと思います。剣道の出会いは小学四年の時。大谷剣道少年団へ入り、以

来、地域の「剣道熱」に育つ。東北大会は八月五日、秋田県大館市で開催。大会前夜、熱を出し体調をくずすというアクシデントもあったが、持ち前の明るさでコンディションを回復。個人戦の部は県代表選手四十八人

によるトーナメント戦で、「一回戦突破が目標だった」彼女の最終試合は、決勝戦。「プレッシャーもなく、負けて元々という気持ちで試合にのぞんだ」。

東北大会での県選手の優勝は、男女合わせても今回が「初」。優勝をだれに一番先に報告したいと思った？とたずねたところ「お母さん！」と、エクボの笑顔が即答。将来の夢は「先生になって、子どもたちに剣道を教えること」と、はつきりと答えてくれた。べにばな国体での活躍も楽しみたい。

(広報委員 滝川清一)

防災も身近なものに

白煙の中、朝日分校で本番さながらの避難訓練

9月1日の「防災の日」にちなんで、左沢高等学校朝日分校では、全校あげての火災避難訓練が9月2日行われ、非常時に備えての本番さながらの訓練に、115名の生徒たちは真剣にとりくみました。

午後2時、「火災発生」。発煙筒の煙りと非常ベルが鳴り響く中を、ハンカチを口にあてた女子生徒らが避難誘導班の指示で、非常口から校舎裏の広場に整然と避難し、班長から村形校長に人員の報告。所要タイムは3分35秒。その後、消防朝日分署の署員の指導で、消火器を使った初期消火訓練も行われ「忘れたところにやってくる」災害に備え万全！



真剣な表情で火にたちむかう女子生徒

古式ゆかしく

うるう年 旧暦の村祭り

八ッ沼春日神社祭り

八月十五日は八ッ沼・春日神社のお祭り。今年は旧のうるう年にあたり、昔からのしきたりに従い、四年に一度奉納される角田流八ッ沼獅子踊り(町無形文化財)や大獅子、古式ゆかしい「御通り」行列などの珍しい行事が披露され、祭りを盛り上げました。

午前八時、春日神社の本殿前で獅子踊りなどを奉納した後、威勢のいいやつこ

この祭行事は、「朝日町史編集資料一号」中の長岡泰一郎家資料によると、寛政十一年(二七九九年)、当時の左沢領主から、村社の祭行事を大名行列によってとり行うことを特別に許され、



大ばんてんのやつこ行列

始まったと書きしるされています。また「物まね」や「花馬」「角力」といった五十余种、総勢二百二十四人の長蛇の列だったことも記され、その華やかさがかがわれます。

血につながる—心につながる— 言葉につながる我がふるさと

安藤 精一 さん

《東京都西多摩郡奥多摩町小丹波220》

ふるさと への便り

▶ 57 ◀

『広報あさひ』を毎月ありがたく拝受。「活性化」に町あげてとりくまれておられる様子に、限りなく敬意を表するものでございます。

私の住む奥多摩町は、東京都の西端に位置し、町の規模はだいたい朝日町と同じくらいですが、内容において朝日町に学ぶことが多いかと思えます。昨秋、当町役場の係長さんら三名の管外視察で、ぜひ朝日町を訪ねたいということを紹介いたしましたところ、町長さんはじめ係の方々の温かいご接待、ご案内で、「ふるさと家族旅行村」の建設現場や諸施設を参観させていただき、力強い数々の実践に大変感銘して帰町したと、うれしい報告を受けました。

他郷にあつて活躍されている朝日町出身の方は、大勢おられますが、それぞれの想いは標題のごとく、いづれも朝日町は「血につながる—ふるさと—」であろうと思います。私にしても朝日町の小学校は卒業していませんが、同じです。

まぶたをとじれば浮かんでくる風景は、宇津野からの眺め、遠い月山、近くに風切山を抱える暖日山であり、そして上郷ダムがつくられる前の急流最上川で、上級生と一緒に夏の水浴びなど、美しい大地・自然に囲まれた町での生活であります。夕食がすむと、街端の地藏堂に近所の子どもたちが集まり、自家製の草ボウキで「ホタルさん」さがらつしやい お山のぼんてん 高ちようつん高ちようつん」と、繰り返し歌いながらホタルを追った夕涼みのひととき。また従兄弟たちに手を引かれ、雪谷の洞門（通水橋）へ、山形県民が献納した飛行機「憂国号」の飛来を見にいったことなど、当時の情景が鮮明によみがえって、思い出は次から次へと続いてまいります。

朝日町は、私の祖先歴代の墳墓の地であります。そして祖先が営々と築いた長い歴史のある郷土であり、私にとって少ないながらも貴重な生活経験のあるかけ

ふるさとへのフルコースで歓迎

千代田区民100名が

朝日登山のため来町



右側手前が85才の秋山さん（展望台）

組は、正午前、鳥原展望台で小朝日から折り返した健脚組と合流。朝日連山をバックに一緒に記念写真を取りながら、雄大なパノラマを楽しみました。

翌日の二十三日は、大沼でワインパーティー。朝日町の「ふるさと」の味「フルコース」に「おいしい！」の連発。「今回の旅はとも町の印象が強く、皆さんの温かい応対ぶりに感激！」と参加者は語っていました。

町でも、この機会を通して都市との交流が盛んになることを期待しています。

東京の千代田区から、野山を愛する区民百名が八月二十二日来町し、朝日登山に挑戦しました。朝の四時、夜行バスで着いた一行は、高齢者生産活動センターで休憩した後、小朝日に挑戦する「健脚組」と鳥原までの「一般組」に分かれ白滝登山口から出発。

参加者の中には、八十五歳と八十七歳の元気なお年寄りもいて、案内役の役場企画課では山岳会員などの協力を得て対応。

途中、ブナ峠などの自然を楽しみながら登った一般



先頭が87才の唐木田さん（鳥原で）

当世むがさの事情 ②

全国どこの市町村でも、独身男女の人口バランスを見ると、圧倒的に男性が多いのはご承知のとおりで、朝日町でも他の町から花嫁さんを迎え入れない限り、結婚できない男性が出てくるのは必然の状況にある。

めぐりあいの会や若者交流会の活動をお手伝いする中で思うことは、長男長女という立場を背負った以上二十歳を過ぎたらこの朝日

結婚—奮起と行動しかない

結婚相談員 渡辺 薫（古橋）

町という空間の中で生活するという自覚とともに、自分自身の将来のビジョンや目標、夢でもよいから持つてほしいことだ。田舎の青

た行動と自信を持っていないからではないでしょうか。一般に結婚適齢期は、女性に二十三歳前後、男性は二十七歳前後で、やはり男

性は遅くても三十三歳までに結婚することが、その後の家庭を築く上で大切なことと思う。婚期を過ぎ、自宅と会社だけの往復で毎日

を暮らすのでは、何ら人生の楽しみがない。一人ひとりの生き方や自立を求め、心の近代化を図っていかなくては、その状態はいつまでも続くでしょう。親の教育が問われるのか、本人自身がしつかりしないのか、わからないが、「孤独が友」のさびしい人生ではないかと思う。親が元気なうちはよいが、当人が高齢になったら、何ともしやれない気持ちになる。

農村社会が世代交替を迎え、生活が多様化する変化の激しい時代の中、自らが腰を上げ、足で行動し視野を広げ、何らかの形で自分を精一杯アピールするまめさとまじめさを結婚志願者に求めたい。何もせずに幸せな結婚、家庭ができるわけはない。当人たちの奮起と勇気ある行動を願わずにはいられない。相談員は、そんな回りからの協力隊でしかないのである。



*プロフィール

- 昭和2年、父・宇津野、母・水口出身で、母の実家で生まれる。
- 父の仕事の関係で、東京で小・中学校を卒業。昭和19年、宇津野に疎開。昭和23年、再び上京し、日本大学高等師範部に学び、教師として奉職。昭和49年、小学校長就任。
- 余暇活動 地方史の研究

がえない故郷であります。昭和二十三年春、上京してからの毎日、自分で述べるのもおこがましいですが、戦後荒廃の社会様相の中で苦闘の連続でありました。この時、心の強い支えとなつていつも私を励ましてくれたのは、ふるさとの思い出でありました。過去をうんぬんするのは「老化した証拠だ」などと言われますが、私にはふりかえるふるさとがあつたればこそ、今の私があるのだとしみじみ思われてなりません。

今年は、私にとって人生の大きな区切りの年、還暦。健康で仕事に励み、現在があることに感謝して、故郷の多くの方々から受けたご恩に報いなければならないと、心を新たにしております。私の経験からも、朝日町出身の学生の方々に、少しでも何らかの応援をしてあげたいと念じている、今日この頃でございます。駄文を述べました。朝日町の皆様が、益々ご健勝で充実・発展されますことを祈つて筆をおきます。

せいねんだん

剣道や陸上で優勝 美術工芸でも最優秀

県青年大会で総合6位入賞

9月5日と6日の両日、米沢市で開かれた県青年大会に、朝日町連合青年団の加藤団長ひきいる57名の選手が、10種目の競技や文化部門に参加。

体育の部門で剣道チームが優勝。さらに元町の渡辺栄子さんが出品したろう染めが、美術工芸の部で最優秀に輝くなど、各部門での選手らの活躍が目立ち、総合6位に入賞しました。その他の成績は次のとおり。

【体育部門】女子200m▼優勝＝海野泰子(送橋) 女子800m▼優勝＝岡崎ひとみ(西町) 相撲▼2位 バトミントン▼3位

【文化芸能部門】写真▼優勝＝加藤正彦(宇津野) 機関誌紙▼優良＝りんごっ娘(女子部発行)



フレーフレーあさひ!



"矢のように走れ"をテーマに 朝日中大運動会

朝日中学校の秋の大運動会が9月6日に開催。
紅白の熱い応援合戦の中、若いパワーがグラウンド
いつぱいにはじけ、父兄らも綱引きやリレー競争など
に参加して、大会を盛り上げました。



何人何却? がっちりとスクラムを組んで

土俵入りも貫禄十分

西小すもう大会

暑い一日の日曜日となつた九月六日、西五百川小学校のすもう大会が同校のすもう場で開催。
行司が呼び上げるしこ名もユニークで、取組の一番一番に観客席から楽しい笑いと声援が飛び交い、大会

も最高潮。化粧まわしに身を引きしめた幕内力士の土俵入りに続いて、「朝日岳」と「暖日山」の東西横綱の土俵入りが披露され、貫禄十分の両横綱に大きな

拍手がおくられました。その後、幕内の一歩勝負が行われ、今場所千秋楽の一番は「暖日山」に軍配。



力強い横綱土俵入り

"朝日勢"県大会でも活躍

県中学校総合体育大会

(7/24~26 新庄市ほか)

- 優勝 剣道女子個人 遠藤めぐみ(栗木沢)
// 陸上走巾とび 成原みき子(西町)
2位 剣道男子団体
3位 剣道女子団体
// 女子バスケットボール
// 陸上男子110M^{ドル} 鈴木幸喜(高田)
4位 陸上男子800M 鈴木幸喜(高田)
5位 陸上女子400Mリレー

県選抜学童水泳記録会

(8/23 山形市霞城市民プール)

- 2位 男子100M^{フライ} 志藤 淳(大谷小)
4位 女子100M^{フライ} 堀由紀子(大谷小)
// 女子200M^{リレー} 大谷小チーム
5位 女子100M平泳 川村美香(大谷小)
6位 女子100M背泳 遠藤厚子(大谷小)

四ノ沢チームが優勝

町高齢者ゲートボール大会



元気な声で「はい、3番!」

9月2日、西部公園グラウンドを会場に第3回の町高齢者ゲートボール大会を開催。

今大会には28チーム、総勢200名が参加して、暑い日ざしの中、トーナメント戦に熱戦を展開。決勝戦は、ともに4戦を勝ち進んできた男性チームの四ノ沢と女性チームの松程B。得点が同点数ながらもゴールした数がまさった四ノ沢チームが優勝。第3位は舟渡、ハツ沼の両チーム。



出版された『浮島の語り』

大沼出身

佐藤ちよさんが

『浮島もの語り』を出版

ふるさとの観光誘致に役



大小合わせて六十余の島々が、風や水の流れにかかわらず浮遊することによって知られる国の名勝地「大沼の浮島」。千三百年ほど昔、山岳修験者の役行者が発見したと伝えられ、その神秘的な現象は全国でも珍しく、町の主要な観光名所です。

この浮島にまつわる神話や不思議な現象を『浮島もの語り』という一冊の本にまとめ、このたび出版されました。著者は大沼出身で現在、中山町に在住の佐藤ちよさん（78歳、旧姓白田）。佐藤さんは大沼での幼少時代や大暮山分校の教員時代に、浮島のほとりを通いながら見聞きした不思議な体験を日記などをもとに八年がかりでまとめたもの。朝夕に、また四季折々に変化する浮島の情景や出来事が興味深く書きつづられ、読む者を浮島の神秘的な世界に引き込むような作品となっています。

八月十八日、山形市内のホテルを会場に出版記念祝賀会も開かれ、大沼区民でもある小林町長はじめ、親せき・友人、地元大沼のかたや町観光協会の会員ら百名が出席。出版を祝って大沼分校の子どもたちによる「浮島太鼓」も披露された会場では、これを契機に、さらにその不思議さを大事にした「修験者の里」構想などの、新たな観光の話題に花が咲いていました。

古道を
たずねて 39

朝霧のぼる最上川
千草八千草咲きみだれ
すずきが風にゆれる日は
黄金の稲穂波を打つ
明け六ツの鐘鳴りわたる
茜は映ゆる暖日山
最上の川面赤くそめ
人間模様影うつし
栄枯盛衰いく歳ぞ
入相の鐘流れ来る

して手の下しようがなかった。しかし漢方医の中でもこの病氣と闘い、親子四代にわたって命をかけた一家があった。それは白鷹町田尻の芳賀与三郎一家である。白鷹町は昔からけだに病の巣窟で、今でも「病河原」の地名があり、上杉藩の藩士が建立した「毛谷明神」が祭られている。

水の古道 最上川⑥
母なる川

つつが虫病

つつが虫病は、江戸時代の昔から風土病として、最上川流域の住民から恐れられた。主な発生地は白鷹町の荒砥、高玉地区、河北町の谷地、溝延地区、天童市の蔵増及び尾花沢市の丹生川流域一帯であった。朝日町としては昭和五十六年六月、中部地区に発病したのが初めてである。

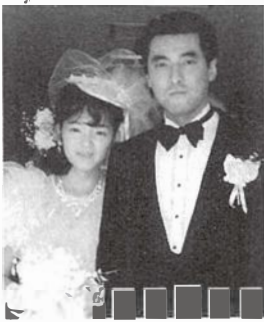
般子弟も入学させた。ところが忠徳が就学中、父・与三郎はけだに病研究の尊い犠牲となった。忠徳は男泣きに泣いた。「口惜しい！ けだに病こそ父と俺と農民の敵だ」と命をかけて執念を燃やした。やがて忠徳は医師となった。兄・周助に子がなかったたので、その養子となり、そしてわが子・中庵と共に親兄弟、孫と四代にわたってけだに病と闘った。

だが当時の漢方医では「けだに病は野ネズミに寄生する毒をもつたけだにが、人体に食い込んで血を吸う病氣」と言われ、治療法は患部に針を立てて毒虫を取り出すか、患部を切り取って治療するくらいの医術しかなかったたのである。（つつく）

（広報委員 長岡幸助）



桑畑の中に建つ「毛谷明神」(荒砥)



ほやほや 新婦さん

大町 今井 彦さん
扶美子さん

*すうやかに (出生届)

62年8月1日～8月31日届出

区 名 出生者氏名 父 名
下 芦 沢 大 滝 裕 司 光 一
大 沼 最 上 誠 幸 祐 一



*やすらかに (死亡届)

区 名 死亡者氏名 世帯主
栗 木 沢 白 田 や す 重 四 郎
大 暮 山 川 口 金 次 郎 幸 次 郎
元 町 岡 崎 た つ る 春 生
大 谷 五 小 林 み つ 子 重 一
大 郎 一 大 高 し ま 利 助

大 谷 三 白 田 隆 典 富 彦
大 暮 山 阿 部 一 規 昭 彦
送 橋 清 野 寛 希 敏 彦
宿 菅 井 悠 子 久 男
常 盤 佐 竹 幸 司 長 司
元 町 海 野 幸 仁 恵 一
助 ノ 巻 鈴 木 貴 仁 芳 太 郎

一彦さんはバスケット、扶美子さんは剣道と、ともにスポーツ好き。秋晴れの佳日、みごとにシュートインしたお二人。
初めての出会いはい？
K 道で偶然に会って。
F 店のお客様として。
K 第一印象は？
K かわいい笑顔が最高！
F こわそう。でも二枚目ネーどんな家庭をつくりたい？
K 誰にでも気軽に遊びに来てもらえるような温かい家庭。
F ほほえましい家庭。
ともに朝日町に育ち、この町が「大好き！」と言うお二人。誰からも愛される「いまE」家庭が誕生！(広報委員 今井仁志)

*人口と世帯数 (8月31日現在)

▽人口 一〇、九九〇人 (四)
男 五、四六三人 (五)
女 五、五二七人 (△)
▽世帯 二、六二一世帯

わかちあう幸せ



赤い羽根共同募金

10月1日～12月31日

温かい善意

●このたび大暮山の川口好子さんより、福祉備品の購入費にと、七万円を町に御寄付いただきました。

●スーパ―などでの買い物物のほか、今はなかなか使われることない一円玉。このたび常盤の長岡弥一さん(77)ほか五名のかたがたより、お財布の片すみから持ち寄った、合わせて五百九十四枚の一円玉を社会福祉協議会に届けていただきました。

最近の新聞にも、全国規模での一円玉募金運動の話題が載っており、同協議会では「これらの温かい善意が集って、多くの恵まれないかたの幸せに役立っています」と感謝しています。

巨大キノコに びっくり

平の菅井さんが採取

八月二十二日、和合平の菅井信夫さんから「大きなキノコを裏山で見つけた」との連絡で、早速カメラを手に菅井さん宅へ。キノコには「ちよつとうるさい」当方も、身の丈三〇センチもある巨大キノコにはびっくり。

このキノコは一般に「サマツタケ」と呼ばれているもので、食菌中の珍品。シメジ科でマツタケのような芳香を放ち、色は全体に淡い黄褐色ないし白色。こんなに大きくなったものが採取されるのは珍しく、親子の巨大キノコを、記念に「パチリ」。

これからが「秋の味覚」を求め山に入る機会が多くなる時期。毒キノコには特に注意し、「秘密の場所」に行くにも家族にだけは行先を告げるなど、キノコ採りに夢中になっての山での遭難には、くれぐれもご用心。



親子のような巨大キノコ

せせり

▼年老いてなお、野良で働いている姿は、似つかわしくも美しい。人間は「働く」ために生れてきた、という感覚が深い。人間は働くことによって体と心のバランスを保ち、体験を重ね感覚をみがいて来たのであろう。

▼九十九歳になると白寿といわれるが、百から一を引いて白という字になぞらえたのである。高齢社会の現在では茶寿を目標としている。百八歳になった祝いである。茶の「かんむり」が二十で下体が八十八になるので、合わせると百八になるのである。喜寿も米寿もすばらしいことであるが、まだまだ、地域づくりや町づくりのために、巾広く活躍してほしい年代である。

▼若者や壮齢者は、新しい時代に生きる知恵と力を発揮しつつある。経営や厚生などの諸問題を、それぞれに決断し実行しようとしている。しかし、多くの心をつなぎ実現しようとする、と備車をまわす潤滑油がない。

▼粗面をうるおす油は、多くの経験と生き方を学んだ人々からもらう必要がある。人の世に足をすえて生きてきた、年多き人の力を借りる必要がある。人間はただ、伊達(だて)に年老いて生きているのではない。(杉)